

《掲示板の言葉》	宗教科通信	令和 8 年 7 月 東大谷高等学校 宗教科発行 (通算 26 号)
花も美しい 月も美しい それに気づく 心が美しい	聞 思 Mon-Shi	

花まつり(4 月 27 日 月曜日 本校講堂で実施)の感想文より



御講師：^{わら}笑い飯 ^{めし}哲夫 ^{てつお}師

<はじめに>

「聞思」とは、本校の宗教行事を通して生徒たちが綴った感想をまとめたものです。

今年度は、「花まつり(釈尊降誕会)」の式典に、お笑い芸人でありながら、仏教に関心を持ち、仏教関係の本を多数執筆されている笑い飯の哲夫師をお招きしました。

ご講話では、「天上天下唯我独尊」という言葉を手掛かりに、私自身のいのちの大切さを教えていただきました。お釈迦様の御誕生をお祝いすることを通して、私自身が何のために生まれてきたのか、誰が私の誕生を喜んでくれたのか、そういったことを改めて振り返ることができました。

<1 年生>

- 正直、宗教行事には堅苦しいイメージがありましたが、実際に参加してとても楽しかったし、仏教がより身近なものだと感じました。
- 先生が言っていたように、たった3年間だけの高校生活をどう楽しむかを考えた時、私は以前ルールをまもれば、自由な高校だったと話していた卒業生の先輩の話を思い出して、自分も卒業する時、そんなことを言えるようになりたいなと思いました。
- 友達と喧嘩をしてしまっただけでその時はたとえ腹が立っていても、一年や半年くらいたったら、人の心は変化してしまうから、プラスに捉えて生きていこうという考えがとてもいいなと思いました。
- 私は哲夫先生のラジオが好きでたまに聴いていたので、とても嬉しかったです。ザ・お笑い芸人って感じで面白かったです。お釈迦様がお母さんの脇から生まれたと聞いて、本当!?と疑問に思いました。
- 日々感謝して生きるということは本当に当たり前と思ってはいけないという話を心に留めておくべきことだから、今回の話を聞いてもっと感謝して生きようと思えました。
- 私の印象に残った言葉は「ありがとう」の反対は「当たり前」ということです。当たり前のことに感謝をしようと思っていたけど、まさか対義語だとは思わなかったのでびっくりしました。でもとても納得しました。
- まず初めに「ありがとう」の対義語は「あたりまえ」というお話を聞き、確かに日常を過ごす中で、初めはありがたいと思っていたことも、段々とそれがあたりまえとを感じるようになってしまい感謝の気持ちを忘れてしまうことが多々あるなと気づかされました。「私自身が今を生きていられることも、決してあたりまえのことではない。」これを肝に銘じ、感謝の気持ちを忘れずにこれから日々を送っていきたいと思います。
- SNSの流行り(ダンスなど)は追いつけないくらい次々と移り変わっていくし、毎日過ごしていても1日も同じ日はない。だからこそ、哲夫さんがおっしゃっていたように高校3年間で大切に、今この瞬間からできることをしてみようと思った。

<2 年生>

- 哲夫さんは「諸行無常」を大切にしている、世の中のすべてのことは常に変化する。永遠に同じ状態ではないと考えており、私はすぐに感情を出してしまうため、「諸行無常」の考え方を見習いたいと思う。
- 仏にも様々な位があるということを初めて知って写真を見たら、全然顔が違いました。一番位が高い如来は苦しみや怒りを表す煩惱が0で、位が下がっていくにつれて煩惱が増えていくということを教えてもらいました。
- 宗教の話を聞くと私はいつも堅苦しいなとかんじていましたが、今日の話を聴いて、宗教について知識があると、生きていく上で役に立つことがあるので、宗教について少し勉強してみようかなと思いました。
- 私は先入観で苦手意識を持ってしまうタイプですし、イライラすると口に出さずとも引きずっている性格なので、少し思うところがありました。

- 当たり前の裏に誰かの努力があることに気づき、だからこそ今を大切に、目に見えない所で頑張る人達に「おかげさま」と言いたいです。今の平和な状況は決して当たり前ではないのに、そのことに感謝をしていませんでした。
- 人に腹が立つことがあっても、1年後同じくらい腹が立っているかって言うと、そうじゃないから仕方ないって考え方は素敵だなと思ったけど、自分がそれを実践できるっていうと、すぐには無理だろうなって思いました。
- いつもご飯を作ってくれているお母さんがいるというのは当たり前ではなく、いつかは自分でご飯を用意することになるので、1つ1つ当たり前に感謝をしていこうと思いました。
- 仏教に魅力をもった理由が意外と単純な理由で親近感がわきました。漫才でスベる恐怖を『華厳経』の1人は皆のためにという教えからみんなスベっていると捉えることができ、克服したというエピソードを聴いて、すごいなと思いました。
- アルペンの看板の話をしていて、ここからどう仏教につなげるんだろうと思っていました。すると、バブル期が終わり、看板の所有者も変われば、内容は変わるという諸行無常につなげて驚きました。それだけでも納得したのに、最後、元は三角形だったアルペンの看板が三角形ではなく四角形に変わってしまったというオチがあって、芸人要素もあっておもしろかったです。
- 如来、菩薩、明王、天は中学の美術で少し習ったことがあったので知っていたけど、顔のちょとした表情や持っている物、踏んでいる物など細かいところまで見たことなかったし、よく見たらおもしろい部分もあって、見直すことができて良かったなと思いました。
- 諸行無常の意味を知ること、何かに腹が立った時の対処法がわかりました。一番腹が立つのはその瞬間で、明日、一か月後、一年後まで腹を立てることはない。
- 昔好きだったカレー屋さんがあり、最近はまだ行っておらず、久しぶりにお店の前を通ると、そのカレー屋さんが無くなっていました。いつまでのあるものだと思っていたため、すごく驚きました。

<3年生>

- 学生時代でしか経験できないことも人生には数多くあります。今しかできないことを積極的にしていき悔いが残らないようにしたいと今日の話を通じて改めて実感しました。
- 体感10～15分くらいだったので、「え、コレでもう終わり!？」と驚きました。哲夫さんはやはりプロの芸人さんなだけあって、話がとても上手でした。テンポがよくて、スムーズに言葉を出す。そして、面白い。すごい! 仏教の話をギャグ調に教えてくれるので、ずっと聞いていられました。
- 人生は諸行無常なのだから、その時勇気を出して失敗しても、やがて変わり忘れてしまう、それなら勇気を出して、失敗した方が良くと思いました。
- 生きていて辛いことなどたくさんあるけど、この辛さを今乗り越えたら何年後かは幸せだし、辛いことのピークが「今」だったとしたら、何日後かには落ち着いているので「今」の辛さに振り回されずに生きようと思いました。

- 哲夫さんの話をきいて自分はいろいろなことを考えすぎていたということに気づくことができました。これは自分にとって本当に大きな気づきでした。
- 普段生活をしている中で、イライラしたり、友達と話していて盛り上がって汚い言葉を使ってしまういたり、誰かを傷つけるような言葉を悪気なく言ってしまう可能性があるなと思ったので、言葉を大事にして生きていきたいと思いました。
- 今回の話を通して、仏教への考え方が変化しました。これまでは、難しい印象を持っていましたが、面白く易しく学ぶことができました。難しいことを分かりやすく伝えられるところに感動しました。
- 何事も今の状況がずっと続いているわけではないし、環境も生活の仕方も人間関係もコロナ変化していくと思うし、今自分がしたいことを大切にして日々の生活を過ごしていきたいなと思いました。
- 私は趣味の変化が短期間で激しく移り変わるタイプで、よく同じものをずっと好きでいられない、楽しめない、すぐに目移りしてしまうなどといったネガティブな方向に自責し、悩んでしまいます。ですが、今日のお話を受けて、諸行無常、何事にも絶対や一生の保障はなく、移り変わっていくものなんだという学びを得られました。
- この世の中の色々なことは次第に薄れていくので、あんまり深く考えすぎなくて良いということです。諸行無常の考え方だけで世の中楽に生きていけるなと思いました。もっと楽観的に考えて生きていきます。

<最後に>

楽しいことも嫌なことも「諸行無常」、つまりはいつかなくなります。日々、生活をする中で、嫌なこと、苦しいことは必ずあります。しかし、そのことは長く続くものではない、いつか無くなるものだということを改めて教えて頂きました。そのような捉えた方ができると、日々落ち込むことなく、活き活きと生きていけるのではないかと感じました。

限られた時間の中で美術部、宗教委員、有志生徒を中心に共に助け合って、飾り付けをしていただきました。大変ありがとうございます。

合掌

